

賤の問題

幼児保育者の反省

—— 賤の根底 ——

倉 橋 惣 三

責任感を以て保育に従事してゐる限り、幼児保育者は日に反省をつゞける。その反省が止つた時、責任感の消耗であり、教育の麻痺である。又恐らく、自分の仕事への、生活への、何んの感激もなく、樂しむどころもなくなるであらう。

幼児保育者の反省は何を反省するか。それは素より一定してゐる譯ではない。しかし、誰れにしても、いつでも反省を禁じ難いことは次の點であらう。

- 一、けふも亦幼児等に親切であつたか。
- 一、けふも亦幼児等の健康をよく氣をつけたか。
- 一、今日も亦幼児等とよく遊んでやつたか。
- 一、けふも亦幼児等の賤けを怠らなかつたか。

但し、かうした反省は、謂はゞ表からの反省である。或は、反省さういふよりも、幼児保育の一般的心懸さいつた方がいゝかも知れない。反省さは、どこかに自分の陥り易い缺點のかすかな自責があつて、それがおのづから省みられずにゐられないのである。

- 一、保育中、ほかのこゝを考へてはゐらなかつたか。
 - 一、幼児をうるさいと思はなかつたか。
 - 一、幼児を相手に腹を立てはしなかつたか。
- 之れは一例に過ぎないが、斯うした諸點はその人その人によつて、相當に傷にさわる痛さを感じるこゝであらう。更に、教育者としての普通の反省に、自分の能力、實力に就ての反省がある。自分の繪のまづさ、自分の歌の下手

さ、自分の觀察に就ての無知さ、等々である。前の二項の反省が稍々保育になれた者の反省であるに比して、此の種の反省は、保育そのことの經驗がまだ反省期に入らない間の人々の反省である。之れによつて自ら進歩してゆくことが出来るのであるが、實は、きりのない話かも知れない。と同時に、自ら到らざるを反省し得たさしても、今すぐさうすることも出来ない。それをのみ氣にかけては、保育の力もなくなるを免れない譯でもある。寧ろ、その到らざるを以てして、幼児の爲に一層よく盡してゐるか否かこそ、幼児保育上のけふの反省であらう。

しかも茲に、けふのさういふ稍々断片的な反省に對して、自分そのもの、繼續的な反省さういふものがある。幼児に對し、けふ、さうしたか、しなかつたかさういふよりも、自分そのもの、性質が、個性が、趣味が、餘りにもありくさ日々の保育にあらはれて來るさうの、其のそらおそろしさの反省である。

これに就て、自分さういふものに關して、何等氣にかゝらない人々さ、それを知らないではないが、しかたがないではないかさ平然たる人々さ二種ある。前者を暢氣さういはれてゐるが、後者を何んさういはうか。兎に角くそのいづれたるを問はず、その人そのものに進歩も改善も向上も期し得ないさうは一つである。のみならず、その人らしい、餘り

にもその人らしい傾向に幼児を型づけてゆくことは、保育の結果の上の大きな憂慮である。勿論教育は何んさうして、その人らしい感化を與へることに相違ないが、その人らしくのみ偏らされるのは警戒を要することである。さういふよりも、餘りにもわれの缺點に添うて偏らすことはなしか、これこそ大きな反省でなければならぬ筈である。しかし、自分さうしたものを作つて、そこに反省の機會が失はれてゆくことも亦、注意を要する點さういはなければならぬ。

○

反省は日々である。しかも、保育に一段落を感じさせられる保育終了期の三月は、一種の總決算的反省の時である。そして、その反省は、今自分を離れてゆく子等の後姿に、ありくさ何ものかを見せつけられる反省であつたりする。又、漫然たる總決算的結論的であるのみでなく、あの日、あの時の反省的追憶が、ありくさもうさういふ浮び來るさうのあるものである。或は又その時それ程に反省もしなかつたさうが、なぜか、今にしてひしひしと追ひ迫るさうのあるものでもある。なぜかではない。あちらではそんなさうなき忘れ切つて、たゞ今日の嬉しさに禮なきをいふ幼いもの、顔が、却つて、その相濟まなささ引つぱり出して來るのである。

保育終了の三月は、幼児教育者にとつて淋しい月である。それは、今まで馴れ親しんだ子らが、今日から離れてゆくからであることは勿論であるが、或は又、餘りにも幼児保育者としての自分が、びつしやりと反省させられる月であるからかも知れない。

しかも、この淋しさは、ほんたうの自分への淋しさは、

お辨當の時の躑

幼稚園でお辨當の時の幼児たちの様子を見てゐるに、心持の上にも、形の上にもいろ／＼のあらはれがある様である。お腹がすいて早くたべたい様子はどの人々も共通の様であるが「いただきます」云つてお箸をさつていただく時にお母様がつくつて下さつたあたりがたい、うれしい氣持を充分にもつて、ほんたうに心の底から「いただきます」である人々、そんなことには全々無頓着な様子でただ口だけで「いただきます」をするものもある。

又形の上でも手際よく食事をしてゐるものもあれば、無

一年々々、自分を幼児保育者として進め、深めてゆくきな力でもある。即ち三月は、幼児にとつての進展の月であるばかりでなく、先生にとつても、進展の月であるのである。たゞ、その進展式を誰れも他人がして呉れないだけである。自己の反省だけが自分を進展させて呉れるのである。

及川ふみ

器用な手つきでお箸をもち、食卓の上や下にあらこちらにこぼしてきたならしくしてゐるものもある。又姿勢なき悪くしておしやべりしながら長い時間食事をしてゐるものもある。この様なお辨當の時の様々の幼児の様子を頭に浮かべながら新入幼児のお辨當の時の躑について考へて見たいと思ふのである。

お辨當の時には幼児たちを躑ける上に、よい機会が度々あるのである。

先づ心持の上の躑について考へて見るに「感謝」の心持の